

教育センター通信

ほ ど
火床の火の心を紡ぐ

第4号(通算120号)
令和6年7月25日

三条市教育委員会
教育センター発行

小中一貫教育
トップページ



三条市小中一貫教育の原点について考える

学校教育課 統括指導主事 畑 宏幸

平成25年度に当市で小中一貫教育が全面実施となってから、今年度で11年目になります。今日まで、我々の先輩教職員の方々が、導入の準備段階から様々な課題や大きな障壁を乗り越え、話し合いと工夫により、年々進化させてこられました。並々ならぬ努力に心より敬意を表します。ここで、その原点について振り返ってみます。当時、核家族化や少子化、地域コミュニティの減退等の社会構造の変化によって、人間力や社会性を身に付ける場が衰退しつつありました。そうした中、いじめや不登校の増加、学習意欲や自己有用感の低下、中1ギャップなど、学校の教育現場においても様々な課題が見られるようになっていました。平成20年に作成された「**三条市小中一貫教育基本方針**」には、この状況を受けて、平成19年に設置された「**教育制度等検討委員会**」の最終報告が記載されています。「学校教育の様々な課題を解決するためには、学力向上、生徒指導の充実、地域学習の充実、小中教職員の協働の視点から小学校と中学校がより連携しやすい環境をつくることが望まれるとして、小中一貫教育を導入することが適切である」と提言されました。これを受けて、**小中一貫教育の目指す児童生徒像が「未来を拓き、力強く生きるための『確かな学力』『豊かな心・個性』『健やかな身体』をもった児童生徒」**に決まりました。また、小中一貫教育の「ねらい」や「期待される効果」についても確認されました。詳細については、**タイトル枠右側の二次元コード**から御確認ください。

今年度の新任・転入校長辞令交付式では、高橋教育長より「三条市の小中一貫教育について、30分から1時間で校長として説明してくださいと言われたら答えられるようになっていただきたい。そして内外に三条市の小中一貫教育をPRできるようにいただきたい。」との言葉がありました。

市内の全職員が「三条市小中一貫教育」について理解を深め、先輩方の築かれてきたものを更に高めていくことが、三条市の子どもたちの笑顔が輝く学校・学園づくりにつながると考えます。日頃の皆様の取組に感謝申し上げますとともに、三条市小中一貫教育についての更なる御理解と御協力をお願いいたします。

学園紹介

四つ葉学園

7月4日（木）、小学6年生が中学校生活を体験する第1回ブリッジスクールが第四中学校で行われました。68名の児童が、5時間目の授業を参観した後、部活動を見学・体験しました。閉会式で代表児童は、「中学校に行っても大丈夫のように、勉強をがんばりたいと思いました」「部活動では、いろいろな部を見学したり、中学生から教えてもらったりしてとても楽しかったです」など元気よく感想を述べました。

次回は、11月に授業体験を主にした第2回ブリッジスクールを開催する予定です。



理科の授業参観 7/4 第四中



陸上競技部の体験 7/4 第四中

三条おおしま学園

6月28日（金）、深めよう‘絆’スクール集会を行いました。今年度は「あすチャレ！スクール」（日本財団パラスポーツサポートセンター主催）から男子車いすバスケットボールパラリンピック日本代表として4大会出場した神保 康広様をお招きし、車いすバスケットボールプログラムを行いました。大島小と須頃小の5・6年生と大島中学生徒が参加し、地域・保護者の方にも来校いただきました。神保様の指導で実際に車いすバスケットボールの試合を行い、全員で応援して一体感を味わいました。また、講話では、神保様の体験を元に、ポジティブな言動の大切さを教えていただきました。いじめをしない・見逃さない気持ちを育む良い集会になりました。



小学生の試合 6/28 大島中



参加者全員で記念撮影 6/28 大島中

しただの郷学園

全国的にも類を見ない「5小学校合同修学旅行」を今年度も佐渡で二日間に渡り行いました。さらに今年度は、5・6年生合同での実施でした。小中連携の鍵は、何と言っても中学校入学前に意図的に育む人間関係づくりに尽きます。中学校へ入学する前から温かい支持的風土の醸成を図り、5つの小学校の児童間で望ましい関係性を築いて、中学1年生の春を迎えられるようにと、毎年実施しています。しただの郷学園における特筆すべき小中連携（小小連携）最大規模の教育活動です。



佐渡汽船上で記念撮影 6/18



佐渡名物「たらい船」体験 6/19

クロームブック

Chromebookの持ち帰りと家庭での活用推進

市内全校でChromebookの持ち帰りを開始し、2か月が経ちます。Chromebookの活用推進に御理解と御協力いただきありがとうございます。次の2点についてお願いいたします。

▼AIドリル（以下ドリルパーク）の活用 … 積極的活用による家庭学習の充実を！

現在、各校ではNRTの結果を基に、児童生徒の苦手分野克服に向けて対策されていることと存じます。ドリルパークには、児童生徒に取り組みせたい単元と、取り組みせたい時間を選択するだけで一人一人の習熟度に応じた問題が配信できる、「課題配信」機能があります。児童生徒だけでなく、先生方にとっても役に立つ機能といえます。これにより、基礎学力を固め、応用力を高めることにつながっていくことが期待されます。ドリルパークを活用した家庭学習の充実に、全校体制で取り組んでいただくようお願いいたします。活用上の御不明な点は、ベネッセICT支援員や三条市教育センターがサポートいたします。気兼ねなくお問い合わせください。

▼Chromebookを用いた家庭への情報発信

Chromebookログイン時に表示される「お知らせページ」では、児童生徒向けの各種イベントを発信しています。家庭で児童生徒と保護者が一緒に端末を見ながら、共通の話題にさせていただくこともねらっています。

配信中のイベント（7/25 現在）

※詳細はChromebookで御確認ください。

- | | | |
|-----------------------|-----------------------|--------------|
| ◆「さんじょう学びのマルシェ」体験会 | … 期日：7月27日（土）・8月3日（土） | 会場：市内7会場 |
| ◆ 三条ものづくり学校キッズワークショップ | … 期日：8月4日（日） | 会場：三条ものづくり学校 |
| ◆ 防災キャンプ | … 期日：9月28日（土）・29日（日） | 会場：大崎山公園 |

※他に、「地域クラブ活動通信」や「新潟県SNS相談窓口」等のチラシが閲覧できます。

道徳科授業研修

令和6年6月26日（水）開催

道徳科の教科教育専門監、春日 哲様（長岡市立秋葉中学校）を講師にお迎えし、道徳科授業の在り方について学びました。子どもに道徳の授業を「自分事」にさせるにはどうすればよいか、道徳授業を「見える化」するための工夫にはどのようなものがあるか等について、学習指導要領の分析演習を交えながら御指導いただきました。また、参会者の「考え、議論する場面を充実させるにはどうしたらよいか」「学習課題をどのように提示したらよいか」など、道徳授業の悩みについて一つ一つ丁寧に御回答いただき、充実した研修会となりました。



参会者の感想（一部抜粋）

- ・道徳授業の「見える化」について、改めて考える機会になった。道徳の授業は自信がなく苦手だが、今回の研修で、少し前向きに取り組めそうな気がしている。
- ・子どもたちが「自分事」として考えることができるように、工夫していきたいと改めて思った。自分の考えが言える雰囲気がある学級になるよう、まずは学級経営に力を入れなければならないと感じた。

学力向上研修

令和6年7月3日（水）開催

一柳 智紀様（東京大学大学院教育学研究科准教授）を講師に、オンラインで実施しました。

子どもたちの学力を高めるために、一人一人の学びを保障することの大切さを改めて実感することができた研修会となりました。

特に、教師は、子どもたちが「課題・他者・自身とのつながり」を切らさないよう目配りや支援をすること、子どもたちに「聴き手」を育てること、「挑戦的な課題提示」をするためにも単元デザインを工夫することなど、一人一人を伸ばすための授業づくりの視点について、具体的な示唆があり、多くの参加者が改めて授業改善の意欲を高めていました。



参会者の感想（一部抜粋）

- ・何よりもまず、聴き手を育てることを大切にしていきたいと思った。そして、少し挑戦的な課題を用意したり、ペア・グループ活動の際に声掛けをしたり、対話の良さを子どもたちに伝えたりなど、教師がすべきことが明確になっていたのも、実態に応じてできることから取り組んでみたいと思った。この研修で学んだことを職員で共有し、学校全体として、「分かるまでの過程」を大切にしたい深い学びを生み出す授業を実践していきたい。